2022年度 小委員会活動成果報告

（2023 年 2 月 1 日作成）

小委員会名	鉄筋コンクリート造建築物の試験・検査研究小委員会	**主 査 名**：棚野 博之 **就任年月**：2020 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	材料施工委員会 （鉄筋コンクリート工事運営委員会）	**委員長名**：橘高 義典 **主 査 名**：野口 貴文
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 （箇条書き）	2007 年 3 月に発刊された「鉄筋コンクリート造建築物の品質管理および維持管理のための試験方法」の全面的な見直しを行い、最終年度に同改訂版の出版ならびに講習会の開催に向けた準備作業を行う。 **初年度**： (1) JASS 5 や関連指針類および建築基準関連法令に規定等される各種試験・検査方法の整理と、現行「鉄筋コンクリート造建築物の品質管理および維持管理のための試験方法」の整合性の確認および整理を行う。 (2) 鉄筋コンクリート造建築物の設計、施工、竣工、維持、更新の各段階に関わる新たな試験・検査・評価方法の情報収集と既存試験方法類の整理を行う。 **２年度**： (3) 上記(1)、(2)の作業を継続して実施する。 (4) 改訂版の構成の見直しを行う。 (5) 建設施工時に不可欠な簡易塩化物量試験および鉄筋かぶり厚さ試験について、それらの試験精度と新しい測定方法の適用範囲等を確認するための共通フィールド試験を行う。 **３年度**： (6) 上記(5)に基づき、各試験方法を CTM として取り纏める (7) 上記(4)に基づき、改訂版(案)の執筆・編集を行う。 **４年度**： (8) 上記(6)、(7)の作業を継続して実施する。 (9) 改訂版原稿の脱稿および発刊に伴う講習会開催に向けた準備作業を行う。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：無 主査：棚野博之（建築研究所） 幹事：濱崎仁（芝浦工業大学） 委員：今本啓一（東京理科大学）、大塚秀三（ものつくり大学）、小野里憲一（工学院大学）、兼松学（東京理科大学）、小山明男（明治大学）、佐藤幸惠（東京都市大学）、陣内浩（東京工芸大学）、鈴木澄江（工学院大学）、瀬古繁喜（愛知工業大学）、辻本一志（全国生コンクリート工業組合連合会）、永田敦（三菱地所設計）、三島直生（国土技術政策総合研究所）、湯浅昇（日本大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	建設時試験 WG 供用時試験 WG 活動計画： 建設時（設計・施工段階）および供用時（維持・更新段階）の管理で実施される各種試験、検査方法を対象に、以下の情報収集、整理等を行い、本研究小委員会を補佐する。 (1) 共通実験（簡易塩化物量試験、鉄筋かぶり厚さ試験）の結果取り纏め (2) JASS 5-T や CTM 等の整理、取り纏め (3) 改訂版（案）の執筆・編集のフォローを行う。 (4) 発刊および講習会開催に向け、小委員会のフォローを行う。	
2022年度予算	600,000 円	**ホームページ公開の有無**： **無** **委員会HPアドレス**： 無

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回（年度内計画を含む） 建設時試験 WG＋ラウンドロビンテスト及び関係者打合せ／11 回、 供用時試験 WG＋ラウンドロビンテスト及び関係者打合せ／9 回

刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等） ＊能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．JASS 5 や関連指針、ISO や ASTM 等海外規格および建築基準関連法令に規定等される各種試験・検査方法の整理と、現行「鉄筋コンクリート造建築物の品質管理および維持管理のための試験方法」の整合性の確認を行い、一覧表として整理を行った。（当初計画通り達成した） ２．設計～竣工、維持、更新の各段階に関わる試験・検査・評価方法の情報収集と既存試験方法類について整理を行い、改訂素案（第 1 案）を作成した。また、小委員会内で改訂素案（第 1 案）の査読を行い、査読意見に基づき修正作業を開始した。 ３．簡易塩化物量試験（担当：建設時試験 WG）に関わる追加の共通フィールド試験を実施し、新規 CTM 策定を含む標準化等に関わる検討を行った。また、電磁波レーダー法による鉄筋かぶり厚さ試験（担当：供用時試験 WG）について、昨年度実施した共通フィールド試験結果の整理を継続すると共に、新規 CTM 策定に向けた検討を行った。
委員会活動の問題点・課題	昨年度までと同様にコロナ渦の影響で全て Web 会議となったが、開催場所、開催時間の制限がなくなったため、従来よりも開催が容易であった。